

漫遊人

311 認知症



大崎短歌会

兼題「自由」

咲きにほう荒佐の宮の櫻花

老木ながら今盛り也

いち早く春をキャッチの山椒は

小さき芽をふき優しく香る

「WBC」経済効果六〇〇億円

侍丁のゲーム鮮やか

若き日の夢はそのまゝまだ見てる

残る余生の長きを望まず

雨止みて雲間より楚々春の月

古火鉢水かがみに清みぬ

梅丸く桃は尖りて桜割れ

花のリレーに託す幸い

実吉安仁

坂元つる子

穂園芳江

本後淑子

井元かず子

山下海征

初めての娘に紀子とふ名を付けし

父母の若き日しきり憶はゆ

許可無しで園の庭さへ歩けぬが

空の雲追ふ心のままに

かの山に春の光ぞ求め行く

迷へるこころ疾く舞い上がれ

上南紀子

原田葉子

馬場みさ

薩摩郷句

兼題「味噌汁」

婆が味噌汁 野山ん旬の 具が沢山

(唱) 筍 じゃが芋牛蒡

薄す味の 妻ん味噌汁じゃ 気力あ無し

(唱) 愛情も有難て 塩気も欲しゆし

上村牛歩

遠矢耐多

寒み朝も 味噌汁一杯で ほっちなっ

(唱) 外は冷え冷え 身体はほっこい

満石うらら

单身暮らし せめて味噌汁は 作れ言っ

(唱) 解った言ばっ 作い気もなし

西ノ園ひらり

爺の味噌汁 豆腐と若芽 ワンパタン

(唱) 葱どん入れっ みやんせち女房

長重リリー

大寝五郎 味噌汁ん香で 起きっ来っ

(唱) 良か味噌ん香ぜ 寝っちよらならじ

二見愚楽満

長げ入院 家の味噌汁が 恋しゆなっ

(唱) 食慣れた味じゆば 年中思め出っ

諸木小春

味噌汁いな 年中卵ん 一人住め

(唱) そしこ食ちよれば 栄養満点

諸木美舟

一人いなっ 女房ん味噌汁が 懐かしゆし

(唱) 今頃気付っ 亡妻も苦笑れ

上窪小絵

出汁しや利かん 嫁ん味噌汁い 胡麻を搗っ

(唱) 喜くだ嫁あ 今日もまた運っ

北村虎王

味噌汁ん具 肴い亭主は コップ焼酎

(唱) 扱け易し亭主て 気楽な女房

藤元鬼瓦